

国民生活センター危害情報における 乳幼児事故についての検討

(分担研究：小児の事故とその予防に関する研究)

杉山太幹^{*}，田中哲郎^{**}

要約：国民生活センターによせられた乳幼児の危害情報について検討を行った。その結果、乳幼児の事故は極めて多種多様であった。また事故の原因についても、保護者の不注意以外に、商品の安全性が確保されていない場合がみられた。近年、商品が多様化し、しかも新商品が次々に登場することより、事故を体系的に収集し、解説評価する体制を早急に確立整備すべきである。

見出し語、国民生活センター、危害情報、商品の安全性

研究目的 国民生活センターは、国民生活に関する情報の提供及び調査研究の実施などを目的に、国民生活センター法（昭45 5月23日法律第94号）により設置された機関である。

以来、国民から寄せられる商品（建築物、公園などの構築物を含む）やサービスに対する苦情、相談に対応すると共に、全国の消費者センターからの同種情報を収集し、これらを分析評価して、国民に提供している。

とくに、人身に危害が及んだ事故については、危害情報（危害には至っていないが、人身事故の恐れのある事故は危険情報）として取り扱っており、今回は特に乳幼児に関連する情報について報告し、事故防止を考える際のための資料とする。

危害情報の収集方法 事故情報の収集対象機関は、①都道府県消費者センター及び消費生活相談窓口のある市区町村（平成元年末 298カ所、以下、消費生活センターという）と、②国民生活センターが情報提供を依頼した病院（500～1000規模の主として公的総合病院、病院数は 8～

10カ所）で年度により若干の差がある。以下、協力病院という）である。

収集方法は、消費生活センターに寄せられた相談、苦情の中から該当する事例を国民生活センターにオンラインにより電送、または所定の連絡シートによって郵送する。協力病院では、新規外来患者の中から該当する事例を選出して、消費生活センターと同様の方法で電送または郵送する。

ただし、天災、労災、交通事故、食中毒などは危害情報から除外している。

結果 収集結果の概要 昭和50年度から63年度までに、国民生活センターが収集した危害情報の総数は50,426件に達する。そのうち、消費生活センターからの情報は15,755件、協力病院からの情報は34,671件であった。

消費生活センターからの報告の年度別推移を見ると、昭和60年度以降はほぼ横ばいである。協力病院では、昭和61年度まで減少していたが、その後、増加傾向を示している。

1. 性別・年齢別危害件数：消費生活センター情

* 国民生活センター(Kokumin Seikatsu Center)

** 東京医科大学小児科学教室(Department of Pediatrics, Tokyo Medical College)

表1. 商品別・年齢別危害件数 (上位商品)
(消費生活センター)

0～2歳 (720件)			3～5歳 (477件)			6～12歳 (625件)		
	商品名	件数	商品名	件数	商品名	件数	商品名	件数
1	ベビーカー	46	花火	* 53	花火	* 62		
2	おしゃぶり	* 40	自転車	44	自転車	59		
3	他の玩具	* 38	他の玩具	* 22	他の玩具	* 23		
4	おもちゃ	36	模型玩具	* 15	靴	19		
5	子供用自動車	28	ブランコ	* 15	二段ベッド	17		
6	花火	* 25	炭酸飲料	10	炭酸飲料	15		
7	魔法瓶	20	子供服	9	水泳	12		
8	椅子	20	粘土	* 9	医薬品	11		
9	歩行器	18	鉛	7	子供服	8		
10	医療用具	17	椅子	7	下着	8		
11	模型玩具	* 15	下着	7	健康食品その他	7		
12	粉ミルク	13	子供用化粧品	6	電気アンカ	7		
13	子供服	12	他の菓子	5	椅子	7		
14	石油温風ヒーター	11	クロレラ	5	靴	7		
15	ブランコ (玩具175)	* 11	ガスレンジ (玩具141)	5	ブランコ (玩具129)	* 7		

表2. 商品別・年齢別危害件数 (上位商品)
(病院)

0～2歳 (5,215件)			3～5歳 (3,679件)			6～12歳 (4,342件)		
	商品名	件数	商品名	件数	商品名	件数	商品名	件数
1	階段	637	自転車	610	自転車	636		
2	自転車	409	階段	292	階段	251		
3	魔法瓶	187	ブランコ	* 196	ブランコ	* 184		
4	ドア	187	ドア	176	鉄棒	144		
5	椅子	155	滑り台	* 145	カッターナイフ	125		
6	カミソリ	134	椅子	89	ドア	116		
7	滑り台	* 129	自動車	83	野球	112		
8	ベビーカー	125	机	81	滑り台	* 111		
9	ストーブ	117	風呂場	77	机	90		
10	自動車	109	床	69	道路	87		
11	茶碗	107	道路	60	遊具	82		
12	床	103	鉄棒	59	床	80		
13	テーブル	94	遊具	54	釣用具	67		
14	おもちゃ	93	テーブル	49	他のスポーツ	60		
15	机 (玩具337)	91	タンス (玩具487)	46	塀 (玩具399)	59		

(玩具は、*をまとめた数)

報について、性別、年齢階層別危害件数をみると性別では女性が70%を占め、年齢別では、20歳代が20.6%で最も多い。10歳未満は10.1%(男23.4%、女6.5%)である。

病院情報では、性別では差はなく、年齢階層別では10歳未満が33.9%で最も多く、特に0～2歳児だけで15.8%を占めている。

2. 商品別・年齢別危害件数：年齢階層別に、どんな商品による危害が多いかをみたのが表1、表2である。

消費生活センターの情報(表1)では、0～2歳で最も多かったのはベビーカーであり、以下、おしゃぶりなどの玩具類である。特異な商品としては、魔法瓶、医療用具、石油温風ヒーター等がみられる。3～5歳、6～12歳では、いずれも花火、自転車、玩具が上位3品目を占

めている。

おしゃぶり、花火などの玩具については、0～12歳の危害総件数1,822件中445件24.4%に達している。

病院情報(表2)では、各年齢階層とも上位2品目は階段、自転車である。各年齢層の危害総件数のうち、階段と自転車と占める比率は、0～2歳で20.0%、3～5歳で24.5%、6～12歳で20.4%と、いずれも危害総件数の5分の1に達している。また、3～5歳では、ブランコ、滑り台などの遊具類が上位商品に含まれている。

病院情報について、さらに性別、年齢別にみると(表3)、性別では女児よりも男児に多く、年齢別では1歳児が最も多い。上位商品を年齢別にみると、階段は0～2歳児で1位を占めているが、件数は1歳児がトップであり、年長に

なるに従って減少している。自転車は3歳以後9歳まで、常に商品別順位の1位であり、特に3歳児、4歳児では危害総数の5分の1以上に達している。

特異な商品として、0歳児の煙草、1歳児2歳児のカミソリがあり、3～5歳児にかけては風呂場による危害がみられる。

3. 危害の内容：病院情報から危害内容をみると(表4)、最も多いのは打撲傷51.5%、次いで開放創23.5%、熱傷、凍傷11.5%などである。

また、商品別でみると、階段、自動車、自転車などで打撲傷が、机、ブランコ、ドアでは開放創が、魔法瓶は圧倒的に熱傷が多い。また、自転車、階段では骨折、捻挫、頭蓋内損傷なども多い。

これら危害の受傷部位を、昭和63年度病院報告の事例でみると総件数951件のうち、最も多いのは頭部打撲傷(278件)であり、次いで顔面開放創(70件)、顔面打撲傷(54件)手指、爪の開放創(48件)、腹部異物(33件)、手の熱傷(30件)などである。

考察 国民生活センターは、全国の消費生活センターと協力病院から危害情報を収集しているが、両者の情報には大きな差がある。

消費生活センターでは、すべての相談、苦情の中から危害に相当するものを選別している。相談者は女性、特に20歳が高率を占め、相談・苦情内容についても女性特有のもの、例えば化粧品、美容などによる危害が多く、乳幼児の危害件数は相対的に少ない。また、消費者からの

表3. 年齢別・性別危害上位商品 (病院)

商品名	合計	男	女	不明	0歳		1歳		2歳	
					商品名	825	商品名	2,493	商品名	1,897
1 自転車	1,439	864	575		階段	72	階段	308	階段	257
2 階段	1,078	637	438	3	煙草	68	自転車	150	自転車	246
3 ブランコ	443	255	188		魔法瓶	45	魔法瓶	105	ドア	95
4 ドア	439	244	195		ベビーベッド	42	カミソリ	86	滑り台	67
5 滑り台	388	226	142		おもむ	41	椅子	80	ブランコ	65
6 椅子	291	170	121		歩行者	39	ドア	79	自動車	50
7 机	242	159	81	2	ベビーカー	35	ベビーカー	69	椅子	44
8 魔法瓶	227	132	95		椅子	31	ストーブ	60	魔法瓶	37
9 自動車	222	126	96		ベッド	26	滑り台	59	カミソリ	36
10 床	222	137	85		茶碗	22	茶碗	56	床	36

3歳		4歳		5歳		6歳	
商品名	1,480	商品名	1,013	商品名	1,013	商品名	866
自転車	219	自転車	208	自転車	183	自転車	144
階段	142	階段	82	ブランコ	71	ブランコ	57
ドア	74	ブランコ	60	階段	68	階段	50
ブランコ	65	ドア	51	ドア	51	滑り台	33
滑り台	48	滑り台	50	滑り台	47	鉄棒	27
自動車	47	椅子	30	鉄棒	27	ドア	26
机	42	風呂場	26	椅子	25	机	22
床	37	鉄棒	25	遊具	21	道路	20
椅子	34	机	23	床	20	扉	18
風呂場	33	自動車	21	風呂場	18	遊具	16

7歳		8歳		9歳	
商品名	727	商品名	654	商品名	603
自転車	113	自転車	78	自転車	85
階段	38	ブランコ	42	ブランコ	27
ブランコ	33	階段	34	階段	27
鉄棒	28	カッターナイフ	29	カッターナイフ	18
机	22	鉄棒	24	鉄棒	18
滑り台	20	野球	21	野球	17
遊具	16	滑り台	21	ドア	16
椅子	15	ドア	20	道路	16
カッターナイフ	15	遊具	17	滑り台	15
野球	15	机	12	遊具	15

表4. 10歳未満の上位10商品別・危害内容(病院)

		打撲傷	関節脱臼	骨折	熱傷	捻挫	頭蓋内傷	脳の血管障害	毛爪変化	皮膚障害	眼の障害	咽白	切傷	内臓損傷	異物挿入	歯の障害	他の覚醒器	他の症候状
	11,744 (100.0)	5,987 (51.0)	2,757 (23.5)	442 (3.8)	1,345 (11.5)	172 (1.5)	45 (0.4)	47 (0.4)	20 (0.2)	207 (1.8)	69 (0.6)	23 (0.2)	20 (0.2)	6 (0.1)	500 (4.3)	5	23 (0.2)	44 (0.4)
自転車	1,439 (100.0)	1,019 (70.8)	279 (19.4)	71 (4.9)	2 (0.1)	34 (2.4)	11 (0.8)	7 (0.5)	2 (0.1)	5 (0.3)	2 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	2 (0.1)				3 (0.2)
階段	1,078 (100.0)	835 (77.5)	150 (13.9)	58 (5.4)		20 (1.9)												3 (0.3)
ブランコ	443 (100.0)	285 (64.3)	116 (26.2)	27 (6.1)		10 (2.3)												
ドア	439 (100.0)	315 (71.8)	91 (20.7)	13 (3.0)		4 (0.9)		5 (1.1)	6 (1.4)	1 (0.2)	1 (0.2)		2 (0.5)					1 (0.2)
滑り台	358 (100.0)	289 (80.7)	31 (8.7)	33 (9.2)														
椅子	291 (100.0)	180 (61.9)	88 (30.2)	24 (8.2)	1 (0.3)	8 (2.7)	3 (1.0)		1 (0.3)	1 (0.3)			3 (1.0)			1 (0.3)	1 (0.3)	1 (0.3)
机	242 (100.0)	130 (53.7)	103 (42.6)	3 (1.2)				1 (0.4)	1 (0.4)				3 (1.2)					
魔法瓶	227 (100.0)	1 (0.4)	2 (0.9)		222 (97.8)				1 (0.4)	1 (0.4)								
自動車	222 (100.0)	172 (77.5)	29 (13.1)	11 (5.0)		3 (1.4)		2 (0.9)	2 (0.9)				2 (0.9)					1 (0.5)
床	222 (100.0)	169 (76.1)	35 (15.8)	7 (3.2)		9 (4.1)	1 (0.5)					1 (0.5)						
小計	4,971 (100.0)	3,375 (67.9)	924 (18.6)	247 (5.0)	225 (4.5)	95 (1.9)	25 (0.5)	18 (0.3)	13 (0.2)	11 (0.2)	10 (0.2)	7 (0.1)	7 (0.1)	2 (0.0)	1	1	1	9 (0.2)

情報は施設や構築物よりも商品として売買されるものに片寄りがちであるが、危害の発生状況については比較的詳細である。また、障害の程度については、指の切断、骨折などの事例も含まれてはいるが、一般的に軽症例が多く、30%以上が医療を必要としていない。

これに対し病院情報では、消費者が医療を必要とすると判断したものが主体であり、障害の程度も医師によって確認され、かつ重症例が多い。

以上のような情報源の特性は、乳幼児の危害情報にも表れている。すなわち、消費生活センターからは、「おしゃぶり」花火などの玩具類などが多いのに対して、病院情報では階段、ドアなどの建築物、あるいはブランコ、滑り台などの公園遊具類が多い。

単品別にみると、自転車が消費生活センターでも病院情報でも上位を占めている。クランクやペダル折損、走行中の部品折損などによる転倒、転落などのほか、特に幼児では、荷台またはフレーム部に取り付けられた自転車用幼児座席に乗っていて、車輪に足を巻き込まれる事故などがある。

玩具、遊具類は、乳幼児の発達に応じて、その種類も異なっているが、ブランコ、滑り台などの公園遊具類が上位にみられる。これらは、「ブランコから転落」「人が乗っているブランコにぶつけられた」「滑り台で転倒」などで、頭部、顔面の打撲傷が多く、骨折、捻挫なども

少なくない。原因は保護者の不注意誤使用などのほか、設置場所、環境の不適切、整備、点検不足などもあげられる。

家屋内構築物として最も多いのは階段であり、特に病院情報では1歳児事故の12.3%というきわめて高い比較を占めている。一人歩きを始めた時期の事故として注目される。

家屋内施設として3歳児以後に風呂場があげられている。国民生活センターが、全国消防局の協力を得て、昭和58年度に実施した「浴場における事故実態調査」では、0～6歳児の事故発生件数614件、うち溺死229件、(37.3%)で、致命率の極めて高い事故として注目される¹⁾。

おわりに 乳幼児の事故は極めて多種多様である。しかし、乳幼児の身体的、心理的発達に対応して、事故の対応も変化している。少なくとも年齢に応じた事故防止対策の徹底をはかるべきである。

事故の原因についても、保護者の不注意以外に、商品の安全性が確保されていない場合がある。提供側は「通常の使用方法であれば」というが、乳幼児は思わぬ使用方法もするものである。玩具類による危害に多い。

事故による障害は、死亡事故を除いて体系的に収集されていない。商品が多様化し、しかも新商品が次々に登場する今日では、事故を体系的に収集し、解説評価する体制を早急に確立整備すべきであろう。

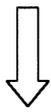
それが、乳幼児にとっての安全な生活環境の
確立でもあったと考えられた。

文献

1. 国民生活センター-危害情報室編，家庭風呂に
おける事故-昭和57年度の溺死・溺水事故及
び大阪府下 200世帯の実態調査，（東京），
昭和58年



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:国民生活センターによせられた乳幼児の危害情報について検討を行った。その結果、乳幼児の事故は極めて多種多様であった。また事故の原因についても、保護者の不注意以外に、商品の安全性が確保されていない場合がみられた。近年、商品が多様化し、しかも新商品が次々に登場することより、事故を体系的に収集し、解説評価する体制を早急に確立整備すべきである。